

# 巻頭言 2007.1月号 茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## Win Winでいこう!

茗溪塾塾長 宇野雅春

中学受験、高校受験、大学受験と本格的な受験の季節が始まりました。上智大学での本番そっくり体験「茗溪模試」も父兄も含めると900名強の参加で1月7日無事終了しました。毎年のことですが受験生にとっては本番を経験することで、自分が実際の受験で「緊張するのか」「余裕なのか」という問題やもっと細かいこと、トイレのタイミングや忘れ物、「うっかり遅刻」や強いては試験でのケアレスミスなどを経験的に体験することができます。塾での学習の締めくくりと最終盤への出発点という意味もあり、ここから大きく伸びてくる生徒もいます。普段の塾とは違う空間でメッセージを伝え意志を固めるという点でも受験学年にとっては意義の大きい行事だと思えます。

小5と中2は1年前体験という意味がありますがそれに加えて今年は「やる気づくりプログラム」を実践しました。フランクリン・コヴィーの「7つの習慣」をもとに塾で作っているプログラムです。最近ショーン・コヴィーの「7つの習慣ティーンズ」も発売されていますので、学校や塾でも活用され始めています。10年ほど前にビジネス書として読んで以来、塾の運営や研修に活用してきたものですが、昨年準備を重ね、今年は、正月特訓、合同特訓、一日勉強会などに実践し始めています。茗溪模試では、小5に「もっとも大切なことを優先する(第三の習慣)」と中2に「Win Win(第四の習慣)」を実施しました。生徒達が思ったよりも真剣に聞いてくれたというのが実感です。七つの習慣のまだほんのどっかかりに過ぎませんが今年一年をかけて完成にこぎつきたいと考えています。生徒の「やる気」を作ると同時に私達自身大いに勉強になる内容です。

Win Winを紹介すると「人生は競争ではなく協力する舞台」というのが「Win Win」の内容です。自分も勝ち相手も勝つ、勝つのは自分が相手ではなく両方ということ。その考えをもとに「受験に於けるWin Win」としてまとめたのが中2の内容です。まずは「競争」と「比較」という2大悪習に勝つということ。自分の目的を達成するというと相手を蹴落とすということは全く違うことです。本当に成功した人ほど、「競争」という考えから自由ではないでしょうか。人よりも優位に立とうとする競争は良い結果を作らないということです。「比較」の中で人との比較は百害あって一利なし、正しい比較は今の自分を自分の可能性と比較することです。プログラムでは、人間関係の4つのスタイル Win-lose、lose-lose、lose-WinそしてWin-Winを受験に引きつけながら説明し、生徒に考えさせていく構成になっています。そして受験に於けるWin Winを以下のようにまとめました。

まず自分がしっかり勉強する。一緒に勉強する仲間を見つけて一番効果の上がる方法を考え実践する。友達 先生 家族にも思いやりと勇気を持つ。誰かの成功を喜んであげる。の4つです。勝ち負けの世界で受験を「競争」と考えると、私達塾の教師は、お金で買った利用すべき道具の1つになってしまいます。そんな風に考えてしまったとき受験での成功はあり得ないか、もしくは成功したとしても、失う物が多くなるはず。自分がしっかりやることで、まわりの人の手助けも生きてくるし、その価値もわかるはずだからです。「受験」を間違った意味でとらえないことが大切なことに思えます。

いよいよ自分の力を試すときがきています。生徒諸君は自分の人生の1つの山にチャレンジします。私達は仕事としてそれをサポートします。純粋な意味で私達の仕事の成功は受験生の成功なくしてはあり得ないものです。これもWin Winだと思えます。